

2025年度 第2四半期（中間期）決算説明会

2025年11月10日
株式会社ツムラ

01

長期経営ビジョン2031の実現に向けて

02

2025年度第2四半期（中間期）決算
2025年度業績予想の修正
第2期中期経営計画数値目標の修正

外商投資規制（ネガティブリスト）の緩和

修治 中医学の理論に基づき、飲片の薬効の変化や毒性の低減、保管を目的に、「蒸す」「煮る」「炒る」などの加工を施すこと

原料生薬



生薬名：白朮（ビャクジツ）

修治後の飲片



焦白朮

麸炒白朮

外資企業は外商投資規制により、「修治」加工ができない

2024年9月8日 規制解除通知の公布（11月1日施行）

TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031 “Cho-WA”（調和）のとれた未来を実現する企業へ

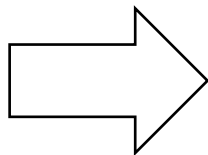
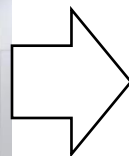
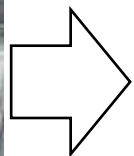
事業ビジョン

中国国民の健康に貢献している状態

事業戦略

中国で信頼される中薬企業になる

完全自動化された工程



業界初の製造工程の自動化 技術開発を目指す



「一人一方」薬事延伸
服务项目介绍

2031ビジョン実現に向けた中国事業マイルストーン



第1期中期経営計画
2022～2024年度

第2期中期経営計画
2025～2027年度

第3期中期経営計画
2028～2031年度

製剤PF

事業参入検討
提携交渉

事業参入と事業拡大
中成薬事業への参入と
基盤構築

ブランド確立
中成薬企業としての
ブランド確立

生薬PF

生薬品質の認知拡大
生薬を中心とした
販売拡大

高付加価値製品・
サービスの展開
飲片および付加価値
サービスの販売比率拡大

業界発展に貢献
中国において
信頼される中薬企業へ

研究PF

方針検討

基盤構築

エビデンス構築

高齢化社会と慢性疾患増加

世界的な高齢化により慢性疾患が増加し、医療ニーズが多様化

伝統医療と植物薬の重要性

多成分系の植物薬は複雑な症状に対応可能な治療法として注目

エビデンスベースの漢方治療

当社漢方製剤は科学的根拠に基づき、医療課題の解決に寄与

WHOの報告と植物薬の利用状況

項目	割合	備考
WHO加盟国のT&CM ^{*1} 活用	88%	国民の健康管理に伝統医療を活用
植物薬利用人口	80%	一次医療の中心的役割
WHO規制プロジェクト	進行中	薬用植物資源の保護と標準化

^{*1} : Traditional and Complementary Medicine
伝統医学と補完医学

WHOが定める国際疾病分類

ICD^{*2}-11（国際疾病分類第11版）の概要

^{*2} : International Classification Code
国際疾病分類

- 約30年ぶりに全面改定され、2022年1月から正式に運用
- **伝統医学章**が追加され、**漢方医学**など古代中国由来の伝統医学診断カテゴリーを体系的に分類

出典：WHOホームページ

◆伝統医学の国際標準化

WHOは多様な伝統医学の分類を国際的に標準化（ICD-11）

◆伝統医学の医療統合

WHO加盟194か国中170か国がそれぞれの国の伝統医学を
価値ある医療資源として、認識し医療制度への統合を推進



インド政府の支援で設立されたセンターは
伝統医学の研究・評価・政策支援の拠点



WHO Traditional Medicine Global Summit 2023 Meeting recommendations Gujarat Declaration

Traditional, complementary and integrative medicine (TCIM) plays an important role in the health and well-being of communities around the world. The first WHO Traditional Medicine Global Summit, "Towards health and well-being for all", held in 2023, explored the vast potential and applications of TCIM in the context of challenges and opportunities to achieve universal health coverage.

The Summit, which will take place biennially, was co-hosted by the Government of India and was held alongside the G20 health ministers meeting. Participants included traditional medicine workers, users and communities, as well as national policymakers, international organizations, academics, the private sector and civil society organizations. The event focused on best practice, green-changing evidence, data and regulation, bioethics, innovation and digital health, with participants sharing their experience of how traditional medicine can positively contribute to health and sustainable development.

The Gujarat Declaration summarizes the outcomes of the Summit.

1. We, the participants of the WHO Traditional Medicine Global Summit 2023 "Towards health and well-being for all", held in Gandhinagar, Gujarat, India, on 17 and 18 August 2023, reaffirm global commitments related to indigenous knowledge, bioethics and traditional, complementary and integrative medicine, including in the Declaration of Alma-Ata of 1978, the Convention on Biological Diversity 1992, the UN Declaration on the Rights of Indigenous Peoples 2007, the UN 2030 Agenda for Sustainable Development, the Astana Declaration on primary health care 2018, the UN General Assembly political declaration on universal health coverage in 2019, and World Health Assembly resolutions on traditional, complementary and integrative medicine (TCIM), and indigenous Peoples' health and rights, among others.

2. We hereby ascribe to this Gujarat Declaration that summarizes the outcomes of the Summit.

We recognize and respect that:

3. All members of our one human family live interdependently with our common home, planet Earth, whose health and well-being have a profound effect on the health and well-being of all people.

4. Billions of people use indigenous knowledge, resources and methods, and TCIM, for their health and well-being, and that for many it is their only or preferred option for health care.

5. The role of the World Health Organization (WHO), as the lead United Nations (UN) technical agency on health, is to apply rigorous scientific methods to support Member States in ensuring effectiveness, safety, and equity in the use of indigenous knowledge, resources and methods, and TCIM systems, and at the same time to be rigorous in evaluating scientific methods to better understand, assess and, where appropriate, apply more holistic, context specific, complex and personalized approaches for health and well-being.

ツムラグループの強み

- 基礎的・臨床的エビデンス
- 高品質な生薬栽培ノウハウと強固なサプライチェーン
- 多成分系製剤の高度な製造・品質管理技術

植物薬への親和性が高く、
高品質医薬品へのニーズが高まる
成長市場

グローバル品質の医薬品
として評価されうる
大規模市場

01

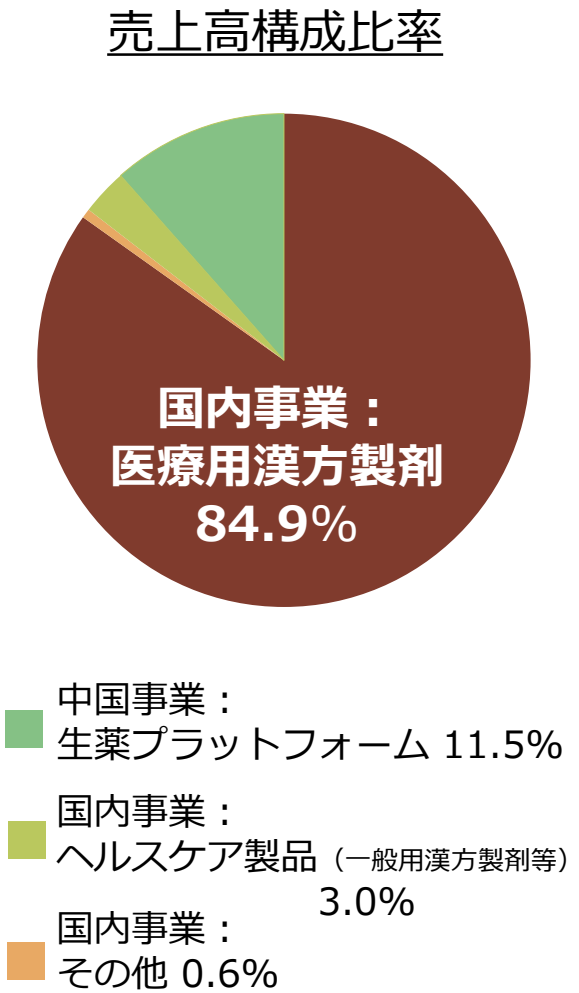
長期経営ビジョン2031の実現に向けて

02

**2025年度第2四半期（中間期）決算
2025年度業績予想の修正
第2期中期経営計画数値目標の修正**

売上高は国内事業が計画に対して未達、中国事業は達成。各利益は計画を達成

【百万円】	2025年度 2Q計画	2025年度 2Q実績	達成率	前年同期比	
				金額	増減率
売上高	91,500	89,897	98.2%	+825	+0.9%
国内事業	82,000	79,539	97.0%	△434	△0.5%
中国事業	9,500	10,357	109.0%	+1,260	+13.9%
営業利益	16,000	17,119	107.0%	△3,955	△18.8%
国内事業	16,400	17,135	104.5%	△4,060	△19.2%
中国事業	△400	△15	—	+105	—
経常利益	16,000	16,419	102.6%	△6,983	△29.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	11,000	12,477	113.4%	△5,024	△28.7%
PL換算レート*（円/元）	—	20.44	—	△0.63	—



決算のポイント

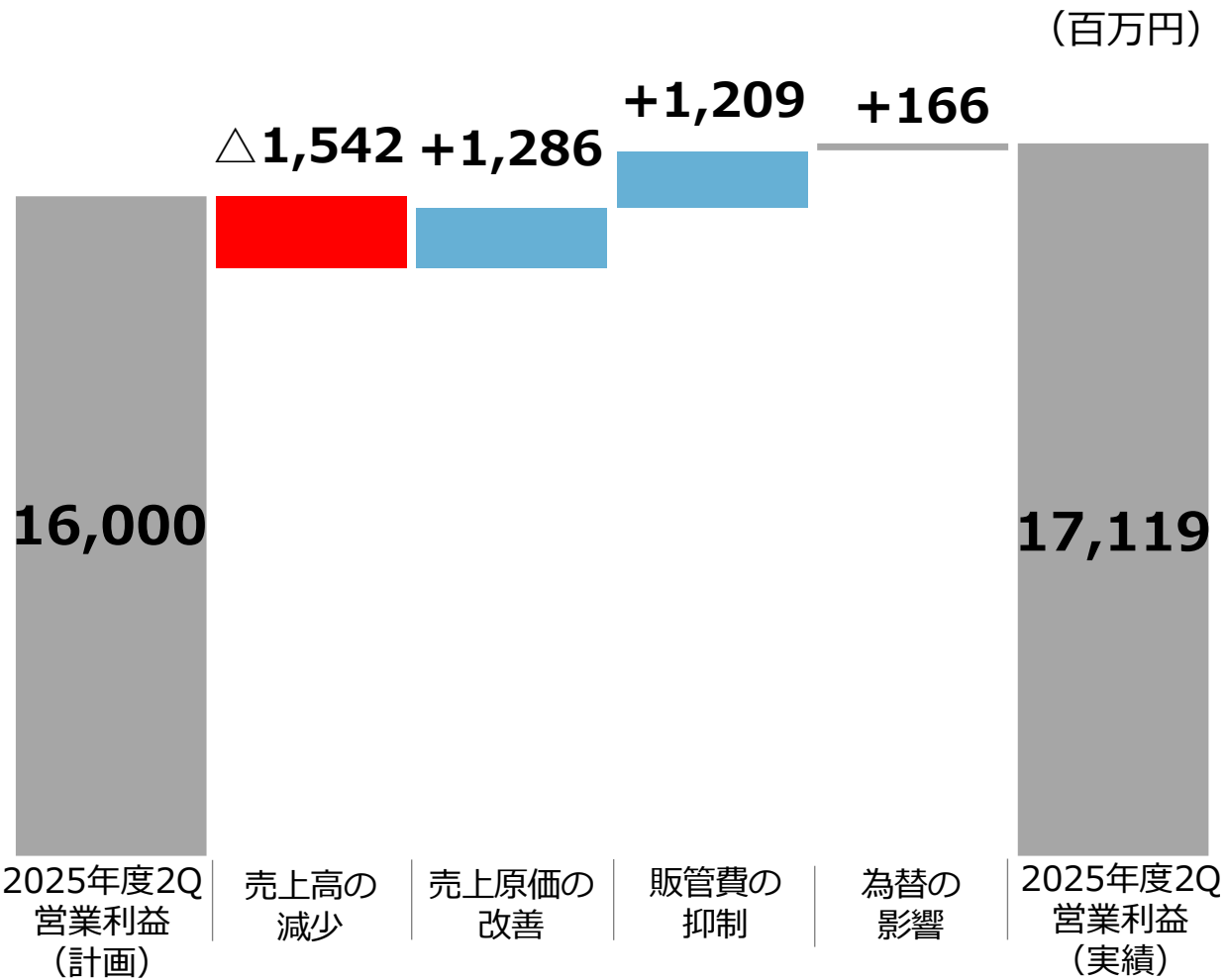


売上高	89,897	百万円	上期計画達成率	98.2%	前年同期比	+0.9%
■ 国内事業	医療用漢方製剤（129処方）		: 76,273百万円	前年同期比	1.1%減少	
	ヘルスケア製品（一般用漢方製剤等）		: 2,719百万円	前年同期比	22.1%増加	
■ 中国事業	原料生薬、飲片、大健康製品等		: 10,357百万円	前年同期比	13.9%増加	
営業利益	17,119	百万円	上期計画達成率	107.0%	前年同期比	△18.8%
営業利益率	19.0	%	上期計画比	+1.5pt	前年同期比	△4.7pt
■ 原価率	: 51.6%	上期計画比 △0.9pt	(対計画：未実現利益の減少、加工費の低減)			
		前年同期比 +3.1pt	(対前年：生薬費、加工費の増加)			
■ 販管費率	: 29.3%	上期計画比 △0.8pt	(対計画：各種活動見直し、研究開発費の低減・期ズレ)			
		前年同期比 +1.5pt	(対前年：給料諸手当、情報提供に関する費用の増加)			
経常利益	16,419	百万円	上期計画達成率	102.6%	前年同期比	△29.8%
■ 海外子会社への貸付金等に係る為替差損	: △789百万円		前年同期は為替差益+1,752百万円			
			※為替差益は業績予想には織り込んでおりません			
親会社株主に帰属する 中間純利益	12,477	百万円	上期計画達成率	113.4%	前年同期比	△28.7%
■ 政策保有株式売却益	: 1,976百万円		前年同期比	+163百万円	* 政策保有株式の売却益は業績予想には織り込んでおりません	

営業利益の増減要因（上期計画比）

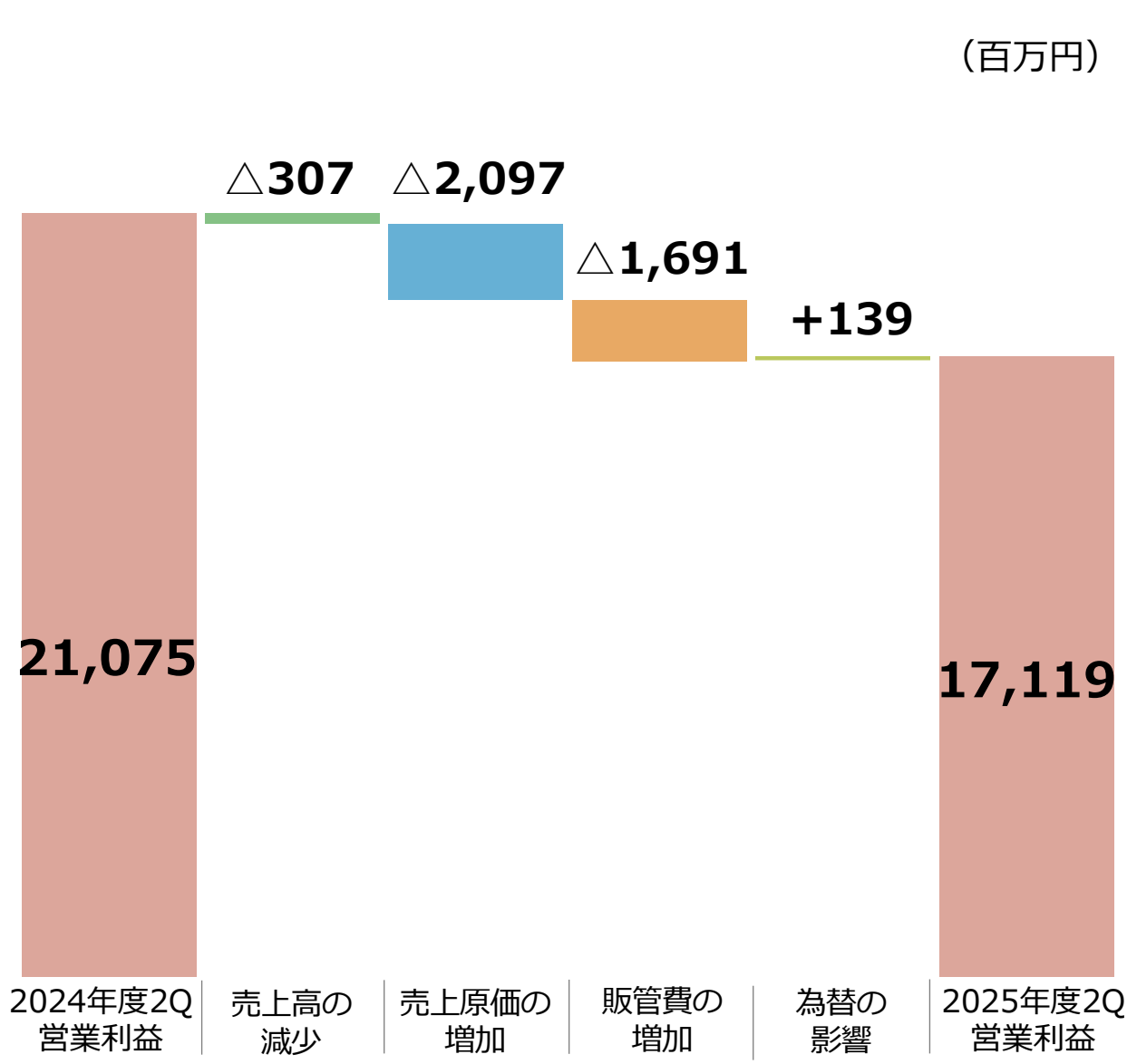


売上高は計画を下回ったものの、加工費の低減、販管費の抑制により営業利益は計画を達成
(百万円)



売上高の減少 △1,542百万円					
国内事業（販売数量、販売構成）			△1,621		
中国事業			+79		
売上原価の改善 +1,286百万円					
国内事業	生薬費	国内生薬費	+690		
		中国エキス粉末に含まれる生薬費	△166		
	原資材費		+49		
	加工費	国内加工費	+713		
		中国エキス粉末の加工費	△41		
中国事業	売上高構成比率の増加		+39		
販管費の抑制 +1,209百万円					
給料諸手当			+496		
研究開発費			+406		
その他			+307		
為替の影響 +166百万円					

営業利益の増減要因（前年同期比）



国内事業：医療用漢方製剤 処方別売上高



(百万円)

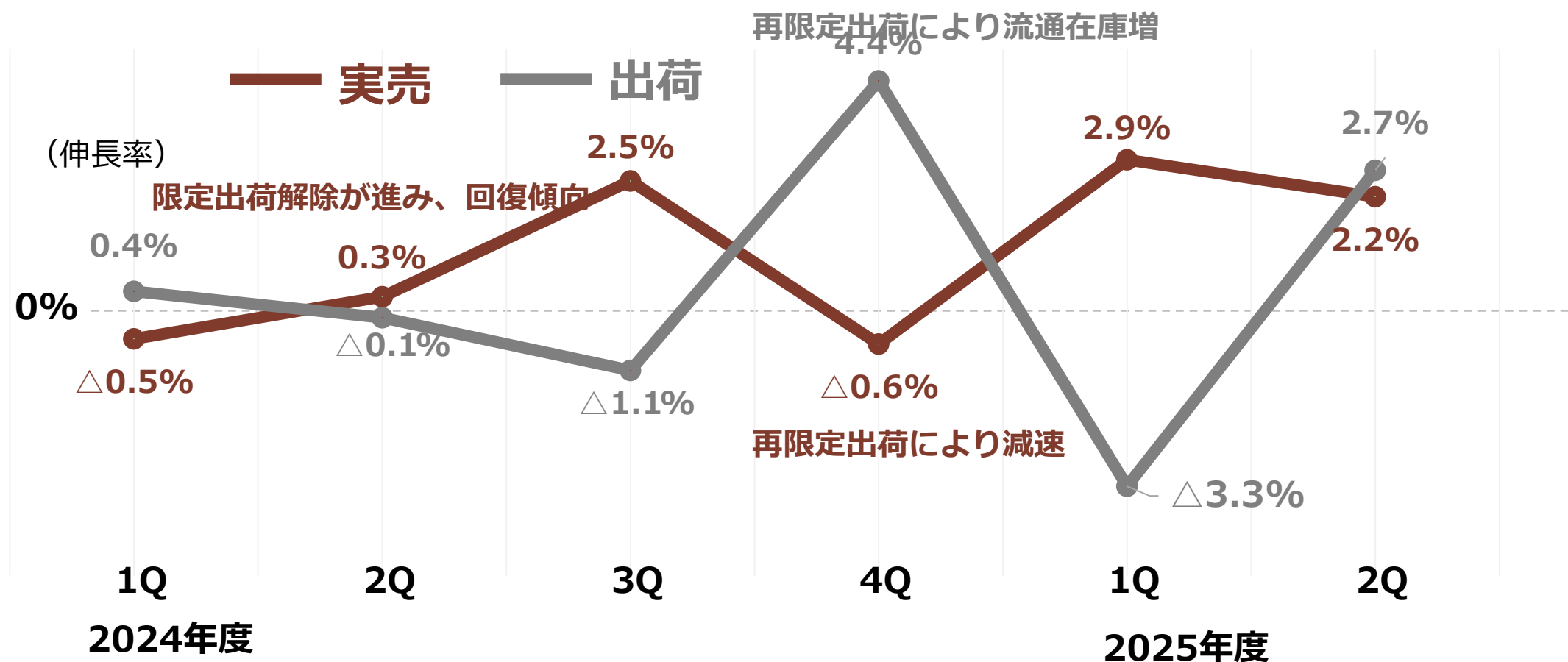
	売上 順位	製品No. / 処方名	2024年度 2Q	2025年度 2Q	前年同期比		【参考：実売数量*】 前年同期比
育薬 処方	1	100 大建中湯	7,510	7,361	△148	△2.0%	+ 2.6%
	2	54 抑肝散	5,816	5,600	△215	△3.7%	+ 2.7%
	5	43 六君子湯	3,581	3,600	+18	+0.5%	+ 1.0%
	7	107 牛車腎気丸	2,830	2,783	△46	△1.7%	+ 3.0%
	26	14 半夏瀉心湯	726	759	+33	+4.6%	+ 4.1%
育薬処方合計			20,465	20,105	△359	△1.8%	+ 2.5%
Growing 処方	3	17 五苓散	3,897	4,299	+401	+10.3%	+ 16.3%
	4	41 補中益気湯	3,937	3,866	△71	△1.8%	△1.1%
	9	24 加味逍遙散	2,441	2,513	+71	+2.9%	+ 2.3%
	17	137 加味帰脾湯	1,125	1,207	+82	+7.3%	+ 6.7%
	21	108 人參養栄湯	1,085	1,003	△81	△7.6%	△4.1%
Growing処方合計			12,487	12,889	+402	+3.2%	+ 6.7%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			44,149	43,277	△871	△2.0%	+ 1.6%
医療用漢方製剤129処方合計			77,101	76,273	△828	△1.1%	+ 2.6%

* 実売数量とは、医薬代理店・卸から医療機関に納入された数量 15

国内事業：出荷数量と実売数量の伸長率の推移

- ・ 1Q末で流通在庫が適正化されたことにより、2Qは実売と出荷が同水準で推移
- ・ 昨年度末の高水準の流通在庫と限定出荷の影響が残り、出荷は計画未達

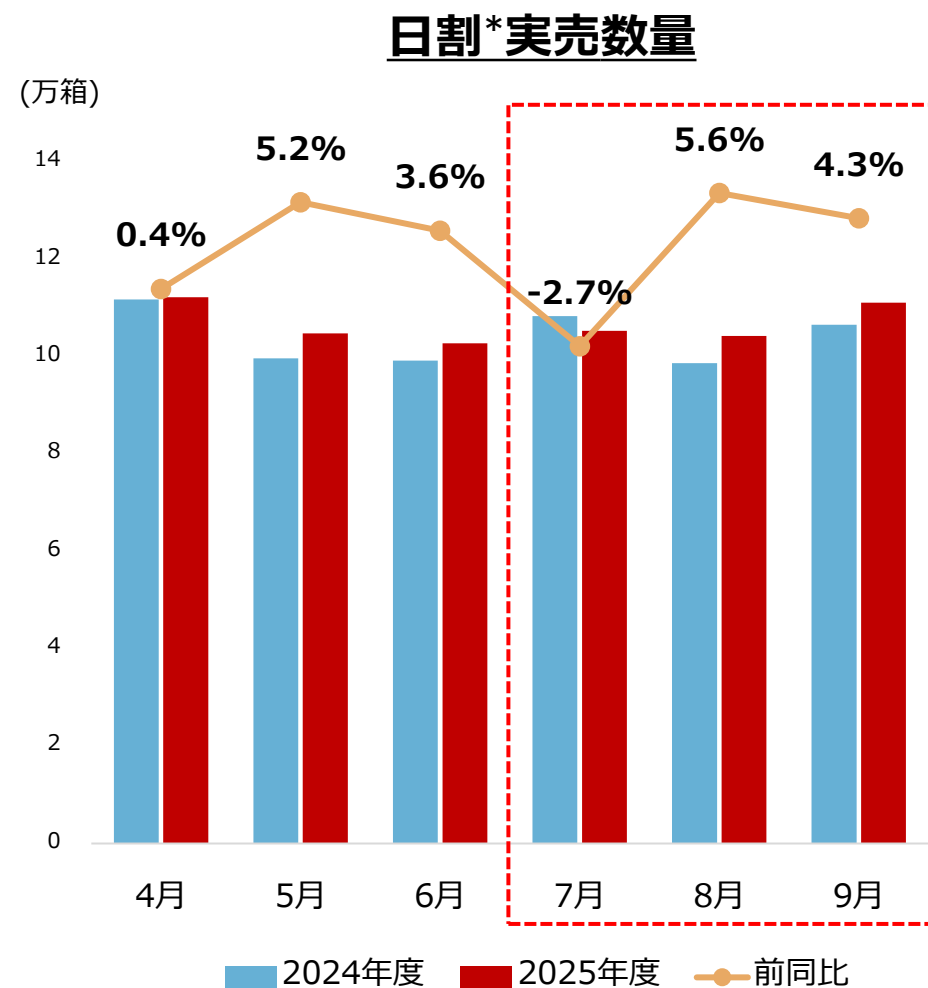
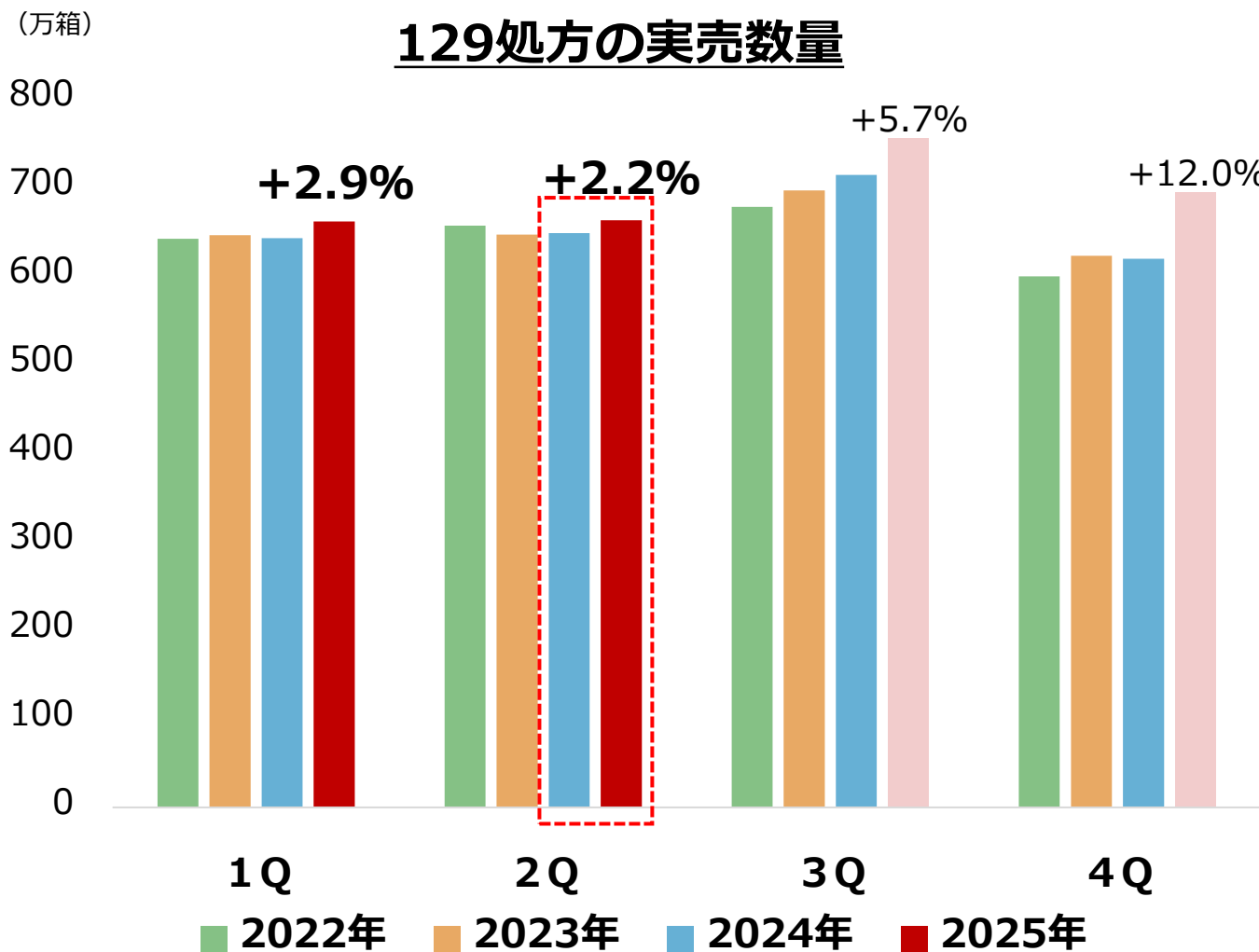
医療用漢方製剤129処方の販売数量伸長率（出荷・実売）の推移



国内事業：医療用漢方製剤129処方の実売数量推移



- ・ 8月、9月は+5.1%と高い伸長率、下期は期初計画を上回る実売を目指す



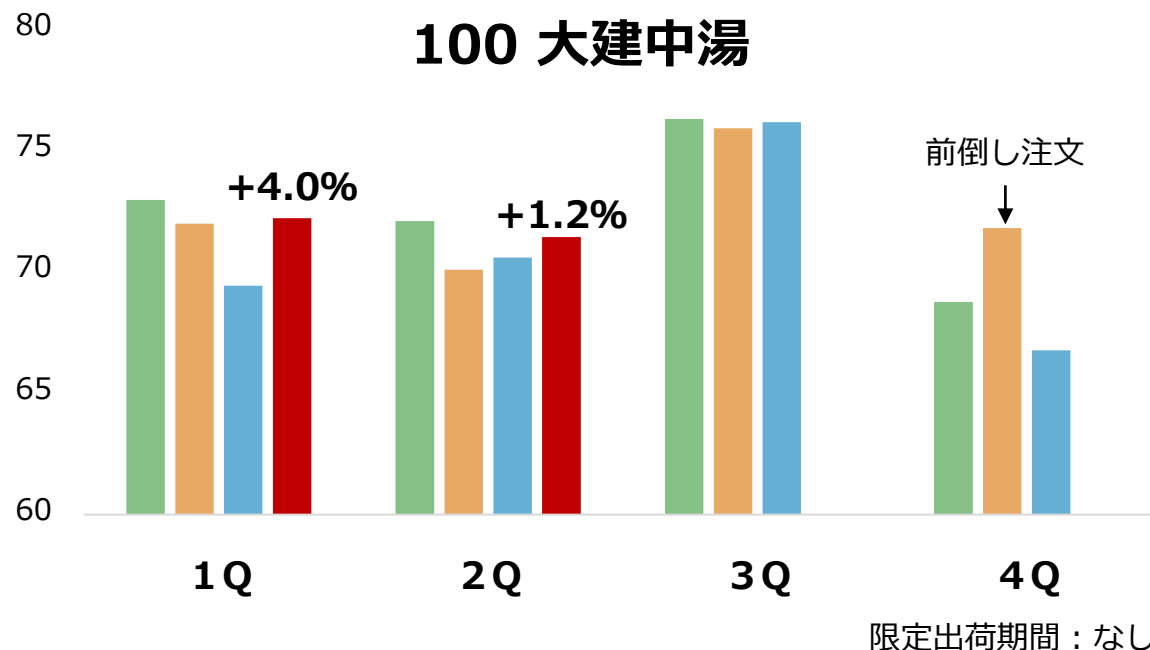
* 月ごとの営業日数を考慮して算出

国内事業：実売数量推移（大建中湯・抑肝散）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度

(万箱)

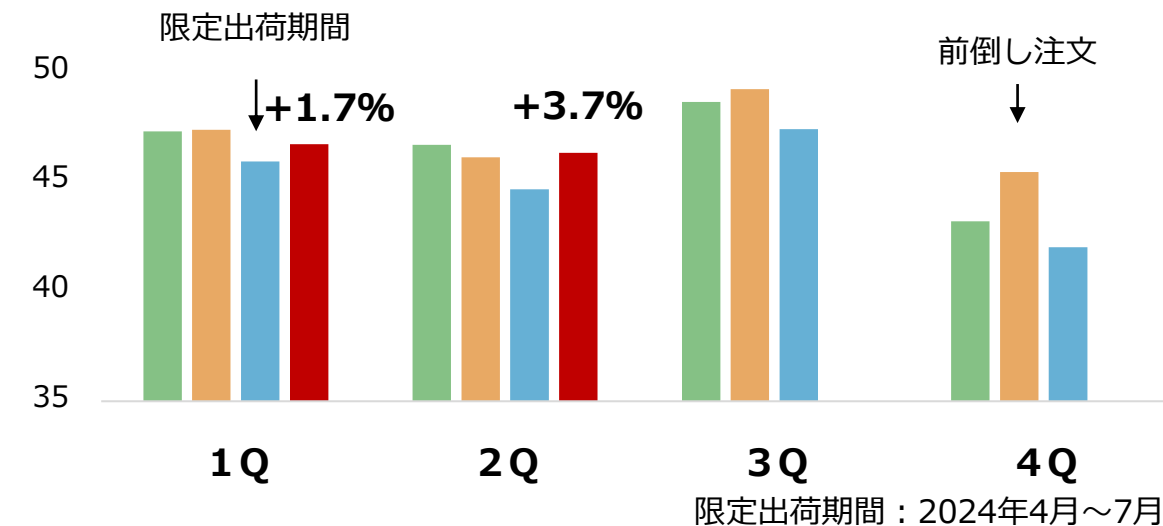


22～23年度:コロナの影響で手術数減少や他処方への限定出荷の影響により横ばい。

24年度:薬価改定による23年度4Qの前倒し注文の影響を考慮するとほぼ横ばい。

25年度:22年度の数量までの回復を目指し、HP（がん診療連携拠点病院など）での情報提供活動を強化していく。

(万箱)



23年度:継続伸長するも限定出荷により減少。

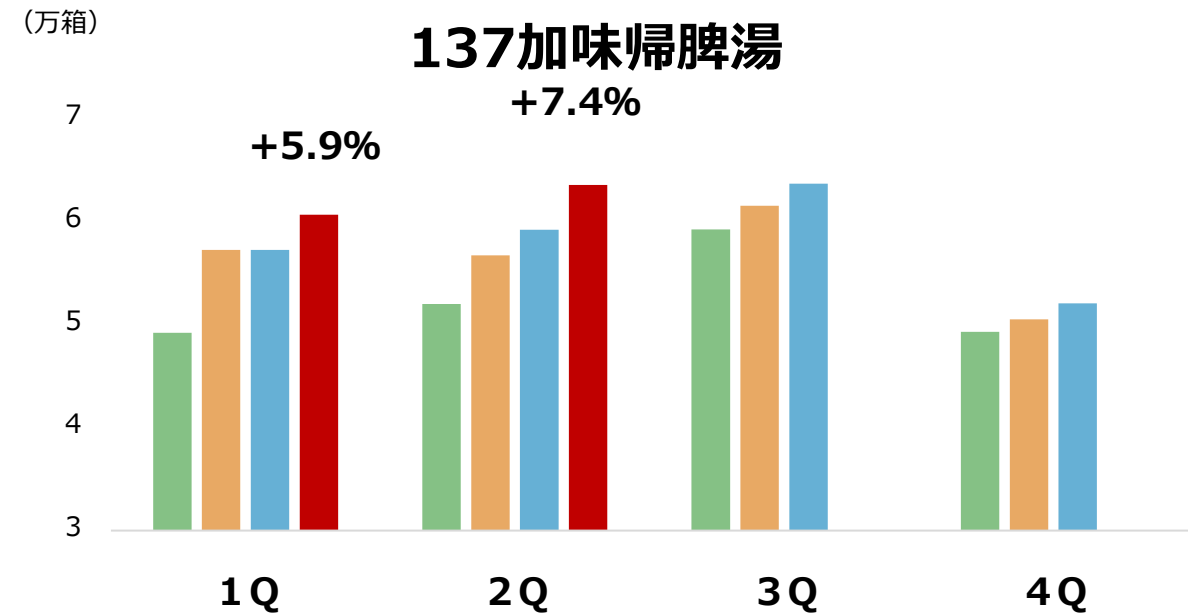
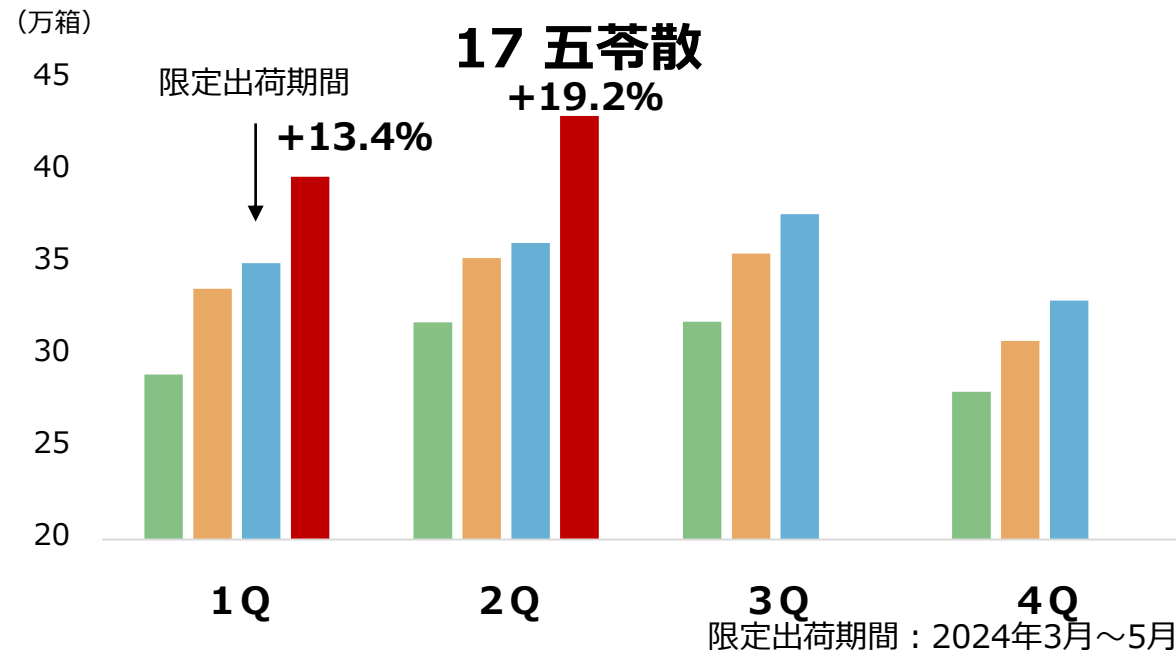
24年度:限定出荷前の前倒し注文の影響や他処方への切替もあり減少。一部処方の再限定出荷もあり回復が遅れる。

25年度:認知症

国内事業：実売数量推移（五苓散・加味帰脾湯）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度



23年度：浮腫、めまい、頭痛等の症状で脳神経外科、耳鼻科等で伸長が継続。

24年度：限定出荷期間に伸び悩んだが、解除後回復。

25年度：梅雨時期のめまい、頭痛で処方拡大している。また、心不全診療ガイドラインに記載されたことにより、浮腫を伴う症例にも処方を拡大していく。

22～23年度：コロナ後遺症の不安、不眠などの需要により伸長。

24年度：不安・不眠の処方として認知が広がり継続的に伸長。

25年度：月経前症候群、月経前不快気分障害の不安などへの使い分けを展開し、さらなる伸長を目指す

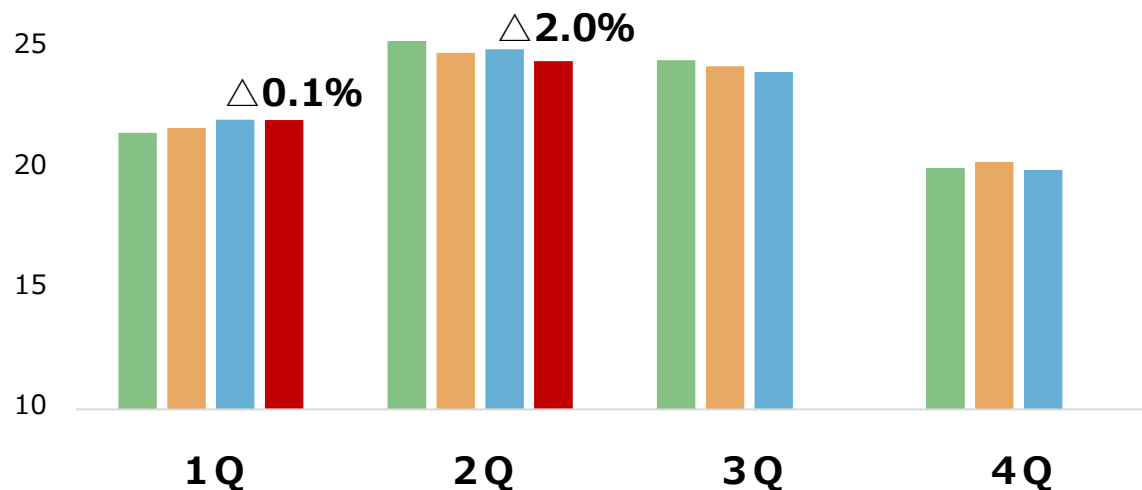
国内事業：実売数量推移（補中益気湯・人參養栄湯）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度

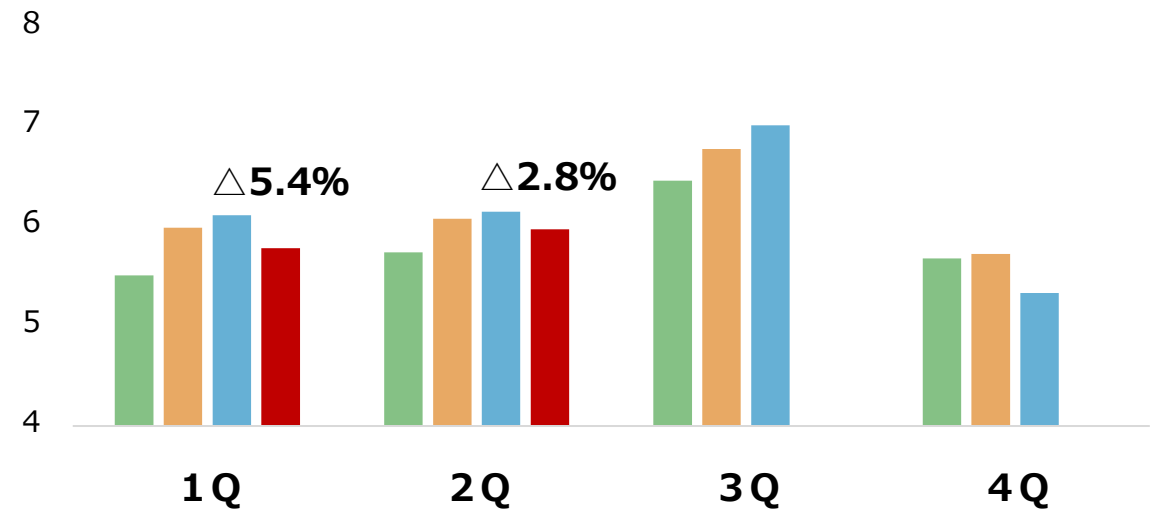
(万箱)

41補中益気湯



(万箱)

108 人參養栄湯



限定出荷期間：2024年12月～2025年1月

22～23年度:コロナ後遺症などの倦怠感の需要があり伸長。

24年度:夏やせなどにも使われ、横ばい状態。

25年度:コロナ需要の反動もあり低迷。がん領域において、HP（がん拠点病院など）での活動を強化していく。

社会課題である重点3領域を中心に情報提供活動を実施

育 育薬処方 G Growing処方

高齢者関連領域

フレイルにともなう諸症状

- G 人参養栄湯
- G 加味帰脾湯
- G 補中益気湯
- 育 牛車腎気丸 + 関連処方

循環器疾患における周辺症状

- G 五苓散 + 関連処方

精神・神経疾患

- 育 抑肝散 + 関連処方

消化器疾患

- 育 大建中湯
- 育 六君子湯 + 関連処方

がん領域 (支持療法)

副作用の軽減など

- 育 六君子湯
- 育 半夏瀉心湯
- 育 牛車腎気丸
- G 加味帰脾湯
- G 補中益気湯 + 関連処方

女性関連領域

産婦人科疾患

- G 加味逍遙散
- G 加味帰脾湯 + 関連処方

その他

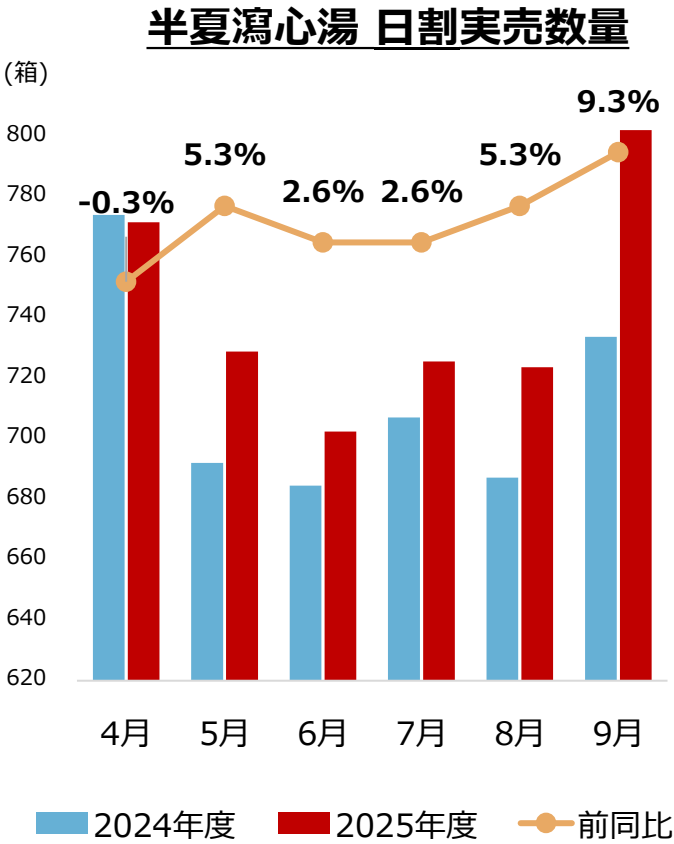
- 育 大建中湯
- G 五苓散 + 関連処方

- ・がん診療連携拠点病院などの医師向けに全6回（5都市）の講演会を開催
- ・300カ所以上のサテライト会場を設置し10,000名以上の医師が参加

がんキャラバン2025

がん医療分野における支持療法やがんとの共生分野に患者支援を目的とした漢方処方の方を解説

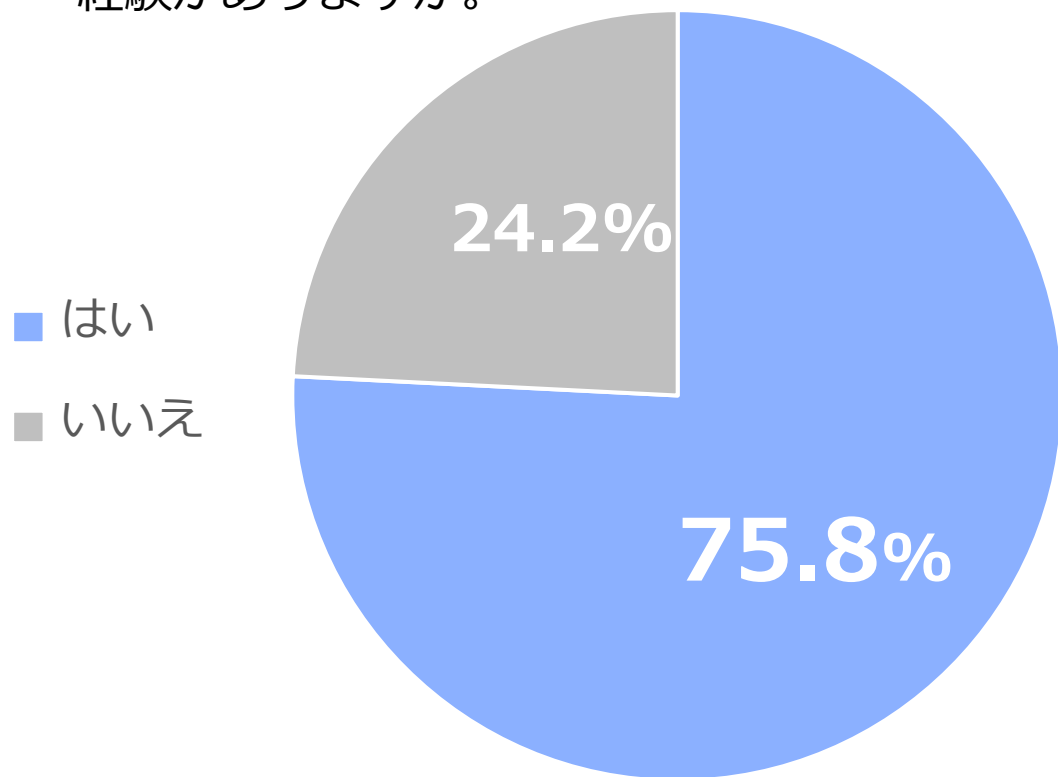
日程	会場	テーマ	主な処方
2025/6/18	仙台	口腔粘膜病	半夏瀉心湯
8/26	東京	食欲不振、悪心・嘔吐	六君子湯
10/29	東京	精神症状	抑肝散/加味帰脾湯
11/12	名古屋	全身倦怠感・疲労感	補中益気湯/人參養栄湯
12/10	大阪	末梢神経障害	牛車腎気丸
2026/2/26	福岡	総復習、副作用	



がん診療の課題に即した情報発信を通じて、医療現場に貢献

女性の健康課題に関する啓発と医療機関との連携強化を推進

Q：あなたは生理前や生理中の不調・症状について、「あたりまえ」と思って「対処」をしなかった経験がありますか。



婦人科診療を行う医療機関と連携し、ポスターやステッカーを掲示

特設サイトでは、本プロジェクトにご賛同いただいた医師から、気軽に相談できるようなメッセージ動画を掲載



<調査概要>

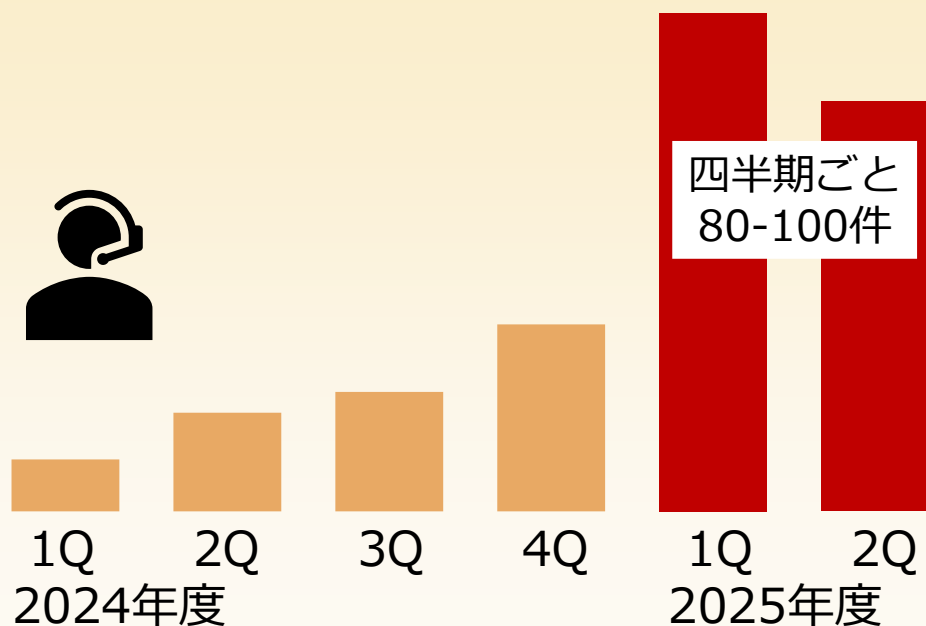
月経前・月経中の症状に関する対処法実態調査

調査主体：株式会社ツムラ 実施会社：QO株式会社

方法：インターネット調査 対象者：全国の19～34歳女性（800サンプル）

漢方オンラインMRによる重点領域、重点処方、季節処方に関する説明会の実施

漢方オンラインMRの面談数



漢方Onlineスタジオ



2025.10/30 (木)
12:30-12:50 ※同一内容を2回配信
13:00-13:20
漢方オンラインMRによる
漢方Onlineスタジオ
「高齢者に寄り添う漢方薬
抑肝散加陳皮半夏
人參養榮湯」

2025.11.11 (火)
19:30-20:30
漢方Onlineスタジオ 特別編
～抑肝散・人參養榮湯 生薬産地巡り～

2025年 11/25 (火)
12:30-13:00
13:15-13:45
二部制 同一内容
ツムラ漢方オンラインMRによる
漢方onlineスタジオ 秋・冬編
～咳、便秘、かゆみ～

ツムラオンラインMRには、オンライン専用MRの最新予約システムが搭載しています。
お好きな日時に、お好きな内容でお申込みいただけます。
本スタジオは、漢方の産地のように、2名の対談形式にて配信いたします。
たいは、秋の学習プログラムとして、漢方シリーズと季節に合わせた漢方薬の使い分けコースにも対応しております。

未面談医師のニーズに応じて、オンラインで完結・MRへ繋ぐ

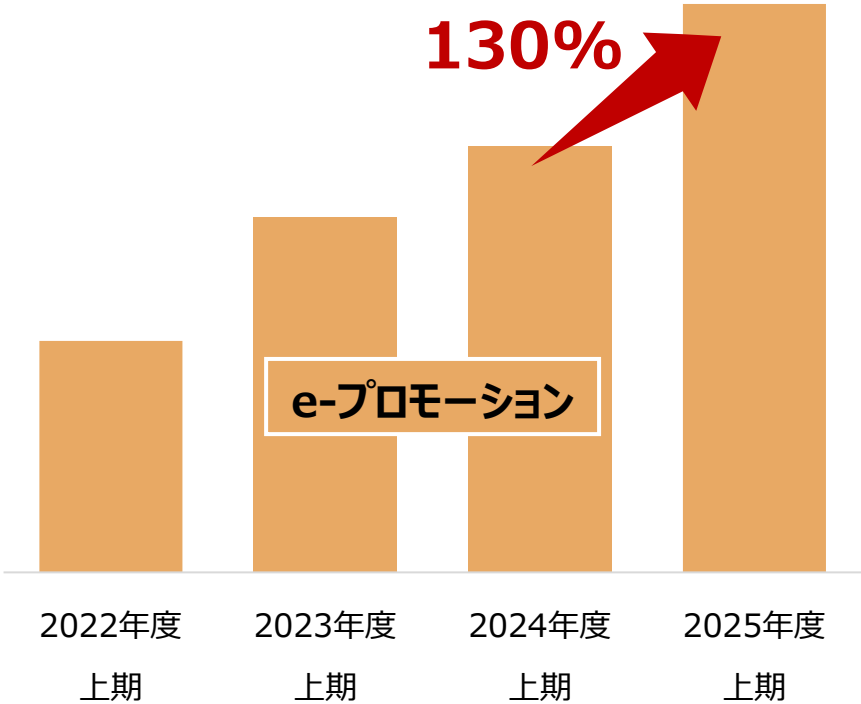
- ・ e-プロモーションによるディテールインパクトは前年同期比130%
- ・ 下期も重点3領域を中心に情報提供を強化

インターネットディテールインパクト業界順位（製品別）

順位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1位		抑肝散	五苓散			
2位	加味逍遙散					
3位						大建中湯
4位					六君子湯	
5位				補中益気湯		
10位以内	小青竜湯			清暑益気湯		

データ期間：2025年4月～2025年9月

ディテールインパクト件数*



データ期間：2022年4月～2025年9月

出所：インテージヘルスケア調査「Impact Track」
*ディテールインパクト件数：MR活動やインターネットなど各チャネルからの情報認知件数（推計）
e-プロモーション：MRを介さないオンライン上の情報提供活動

- 中国事業の売上高、営業利益ともに計画を上回る進捗

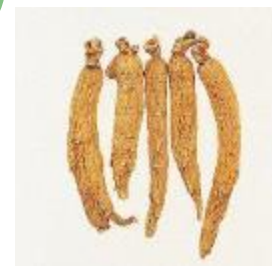
中国事業	売上高	103.5億円
生薬PF	営業利益	5.3億円
新規事業関連、IT基盤投資等	経費等	
中国事業	営業利益	△0.1億円

13.9%
増加

21.3%
増加

伸長率（前年同期比）
+16.2%

原料生薬



原料として、
中成薬メーカーへ販売

伸長率（前年同期比）
+3.4%

飲片



病院や薬局へ
医療用やOTCとして販売

生薬PFの主要製品

- 2025年度 第2四半期（中間期） から貸借対照表を連結
- 2025年度 第3四半期から損益計算書を連結予定

会社名	上海虹橋中薬飲片有限公司（以下、虹橋飲片）
取得した持分比率	51%
取得日	2025年8月8日（みなし取得日 2025年6月30日）
取得金額	23,837百万円
発生したのれん金額	20,590百万円 ※暫定的に算定された金額、今後PPAを実施予定
のれんの償却方法	均等償却（20年間）



虹橋飲片の工場

連結した虹橋飲片の貸借対照表
(2025年6月末時点) (百万円)

資産合計	27,172
流動資産	17,488
固定資産	9,683
負債合計	20,902
流動負債	8,012
固定負債	12,890

既払込金額 (2025年11月10日時点)

16,686百万円
(取得金額の7割)

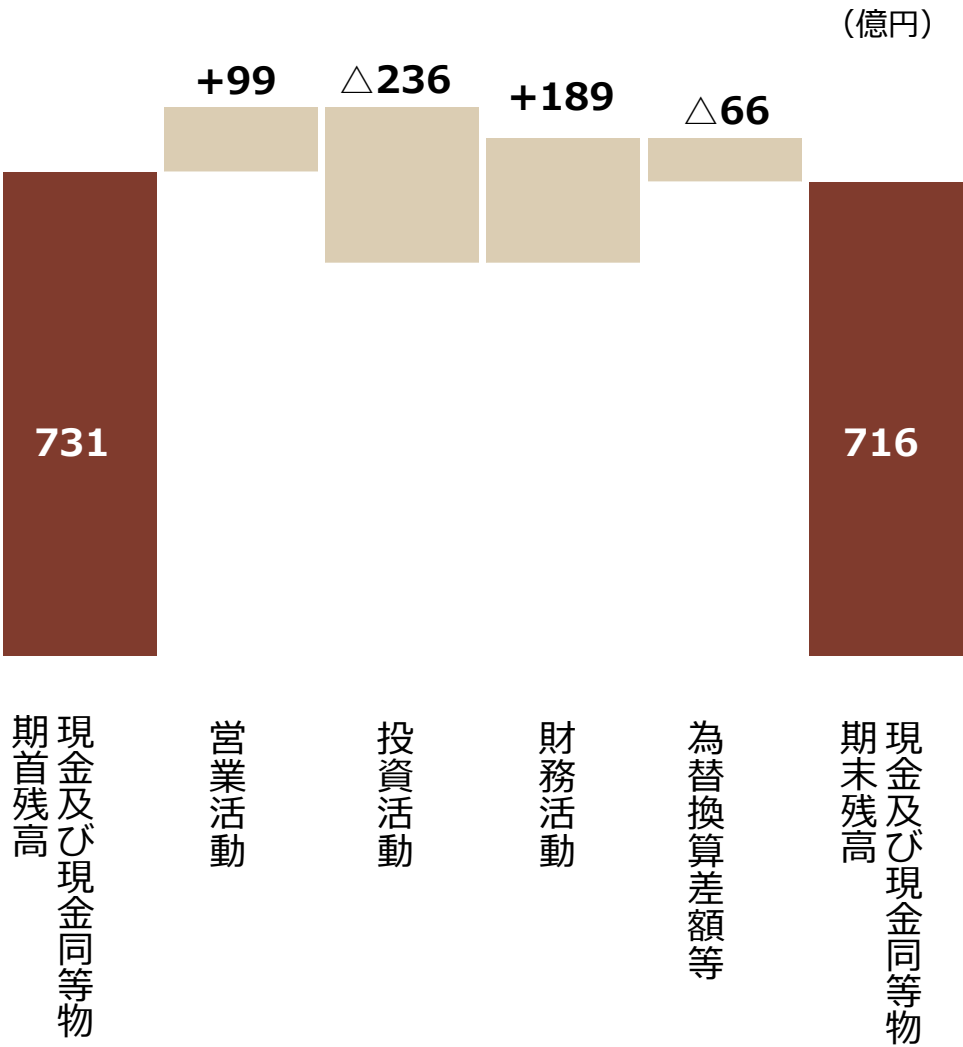
財政状態およびキャッシュ・フロー



(百万円)

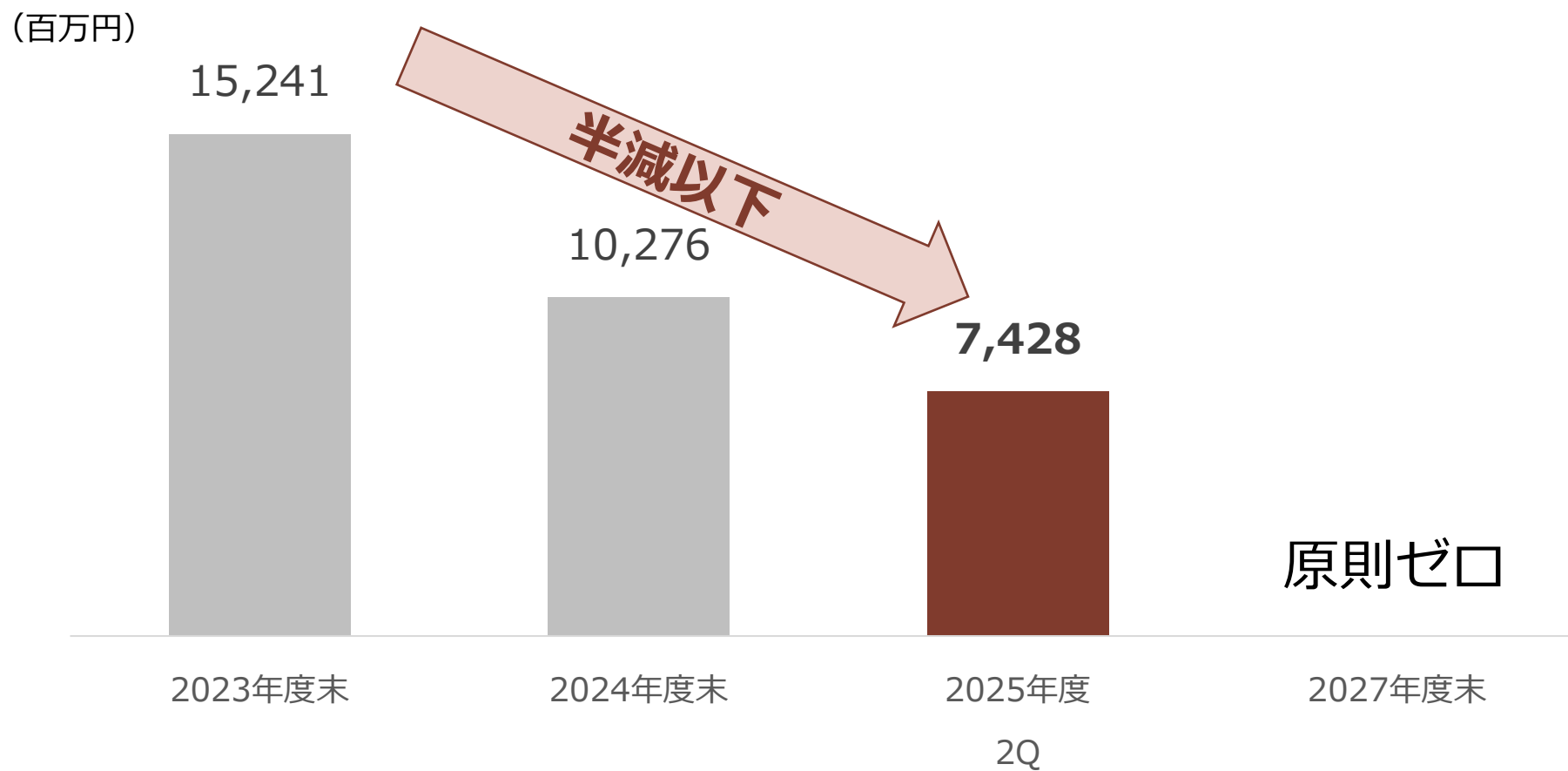
	2024年度 (2025年3月末)	2025年度 2Q	増減額	内、虹橋 連結影響
資産合計	464,380	516,486	52,105	23,915
流動資産	295,709	311,075	15,365	17,477
固定資産	168,670	205,411	36,740	6,437
負債合計	134,270	189,998	55,727	20,808
流動負債	61,913	103,368	41,455	7,918
固定負債	72,357	86,630	14,272	12,890
純資産合計	330,110	326,487	△3,622	3,106
自己資本比率	64.7%	56.9%	△7.8pt	

	2024年度 (2025年3月末)	2025年度 2Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	133,784	141,237	7,452	△6,064
商品及び製品	14,939	21,565	6,625	△543
仕掛品	20,197	23,485	3,288	△269
原材料及び貯蔵品	98,647	96,185	△2,461	△5,252



- ・ CCC改善にむけて売掛金サイト短縮と生薬在庫回転率向上の取り組みを継続的に実施中
- ・ 政策保有株式の縮減に取り組み、半減（2023年度末比）を実現

政策保有株式の推移



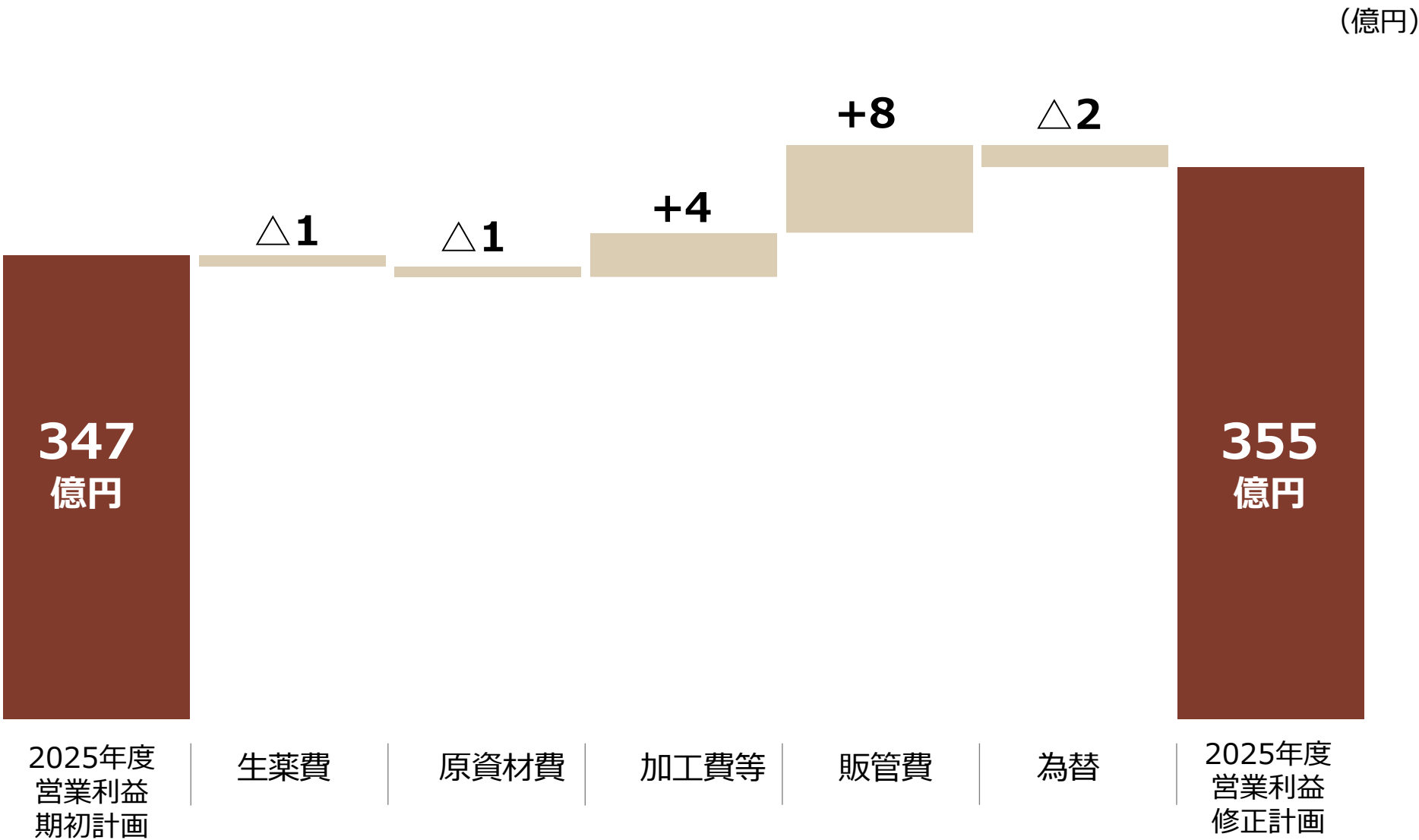
2025年度 業績予想の修正



虹橋飲片の連結および加工費の低減、政策保有株式の売却益等により業績予想を修正

【単位：百万円】	2025年度 期初計画	2025年度 修正計画	増減		修正理由
			金額	増減率	
売上高	188,000	198,000	+10,000	+5.3%	下期から虹橋飲片を連結
国内事業	167,900	167,900	—	—	
中国事業	20,100	30,100	+10,000	+49.8%	
営業利益	34,200	35,000	+800	+2.3%	国内事業：加工費の低減、販管費の抑制等
国内事業	34,700	35,500	+800	+2.3%	中国事業：虹橋飲片の連結影響は取得初年度特有の会計処理に関する費用等により軽微
中国事業	△500	△500	—	—	
経常利益	34,000	34,500	+500	+1.5%	政策保有株式の売却益等
親会社株主に帰属する 当期純利益	23,000	24,300	+1,300	+5.7%	
ROE	7.5%	8.0%			
EPS	302.95円	320.08円			

国内事業営業利益予想の増減要因（期初計画比）



売上高

営業利益

ROE

変更後

2,340
億円

460
億円

9
%

前提条件（変更なし）：（薬価改定）2025年度、2026年度、2027年度
（為替レート）20.1円／元（2025～2027年度）

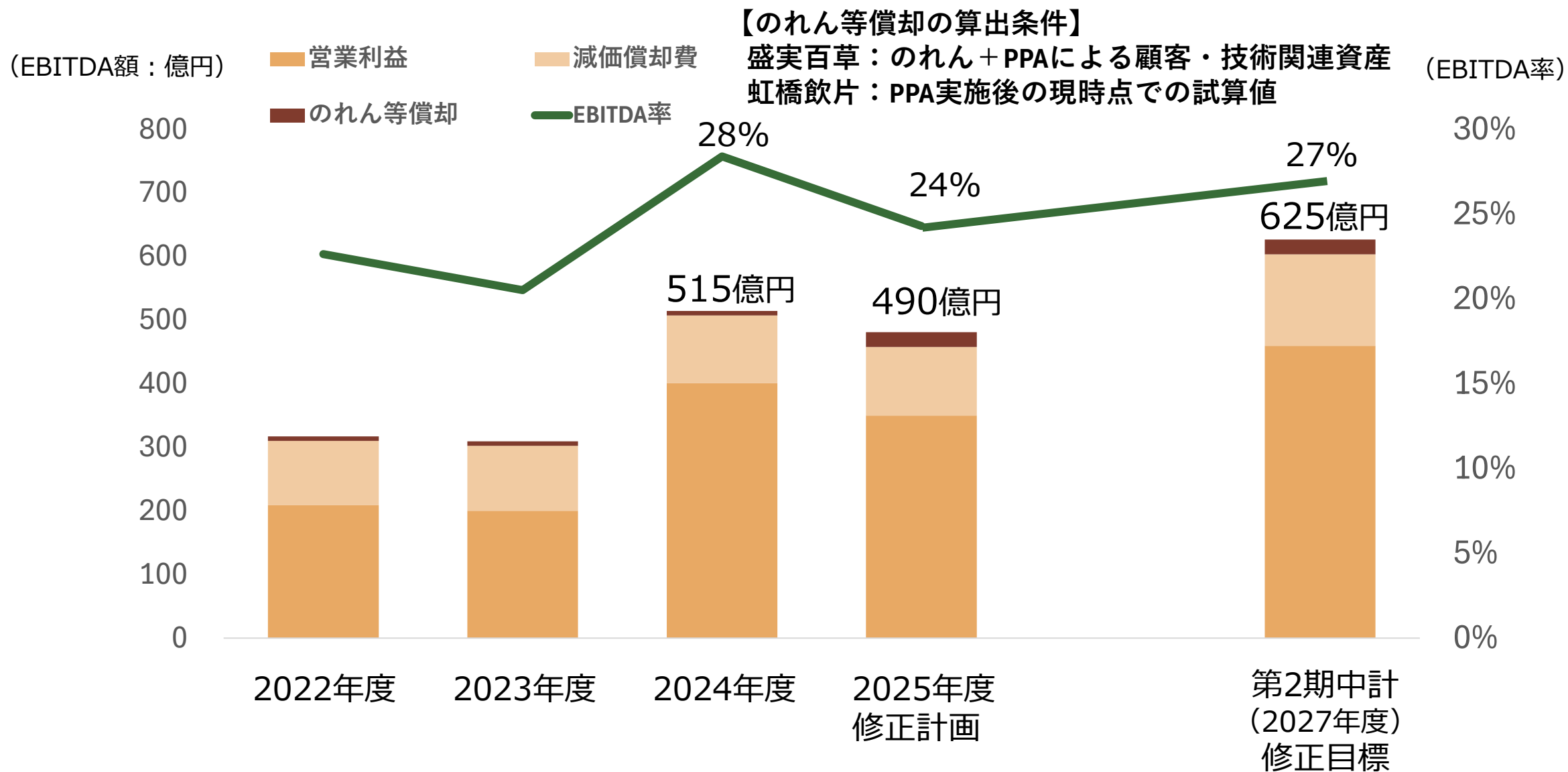
変更前

2,340
億円

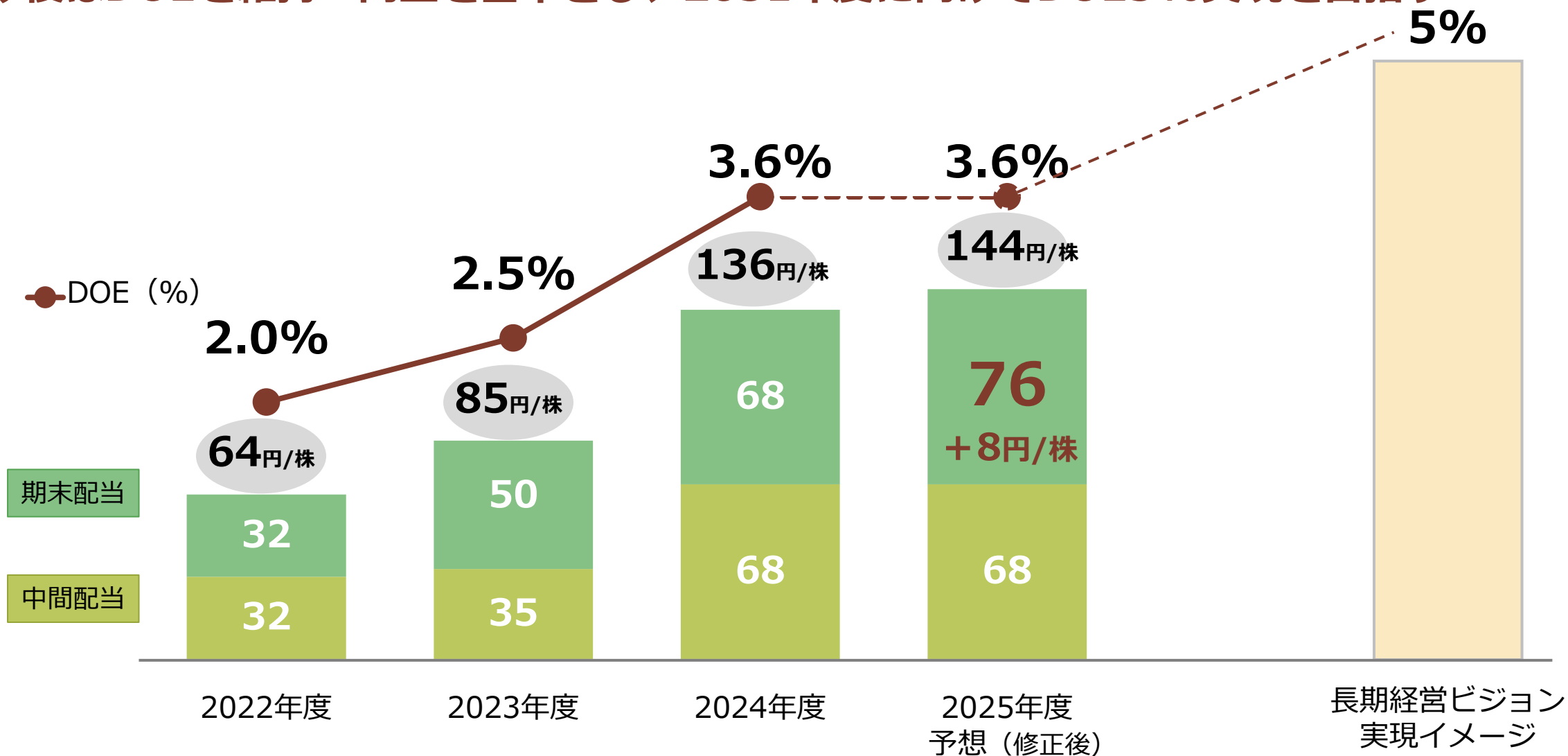
430
億円

8
%

EBITDAの推移



- ・ 2025年度は期初予想に対して+8円/株増配の144円/株を予想
- ・ 今後はDOEを維持・向上を基本とし、2031年度に向けてDOE5%実現を目指す



コーポレート・コミュニケーション部

I R推進課

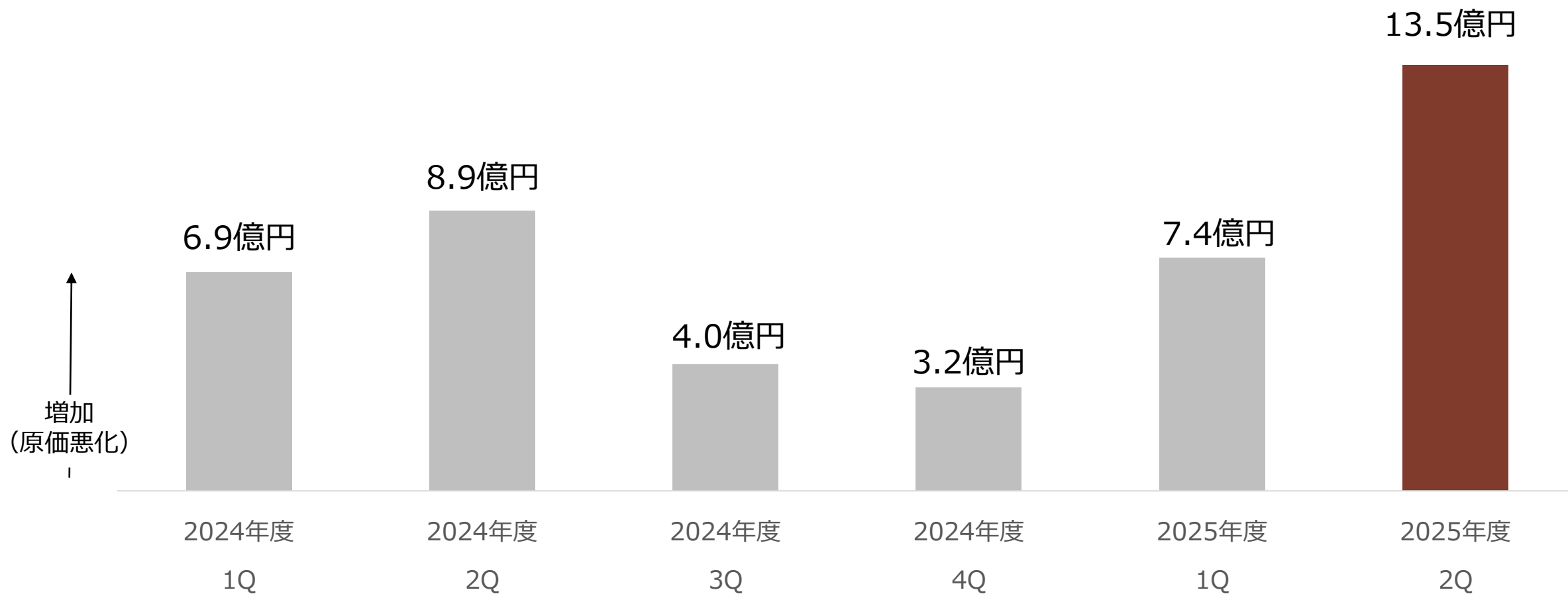
investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

本資料に関する注意事項

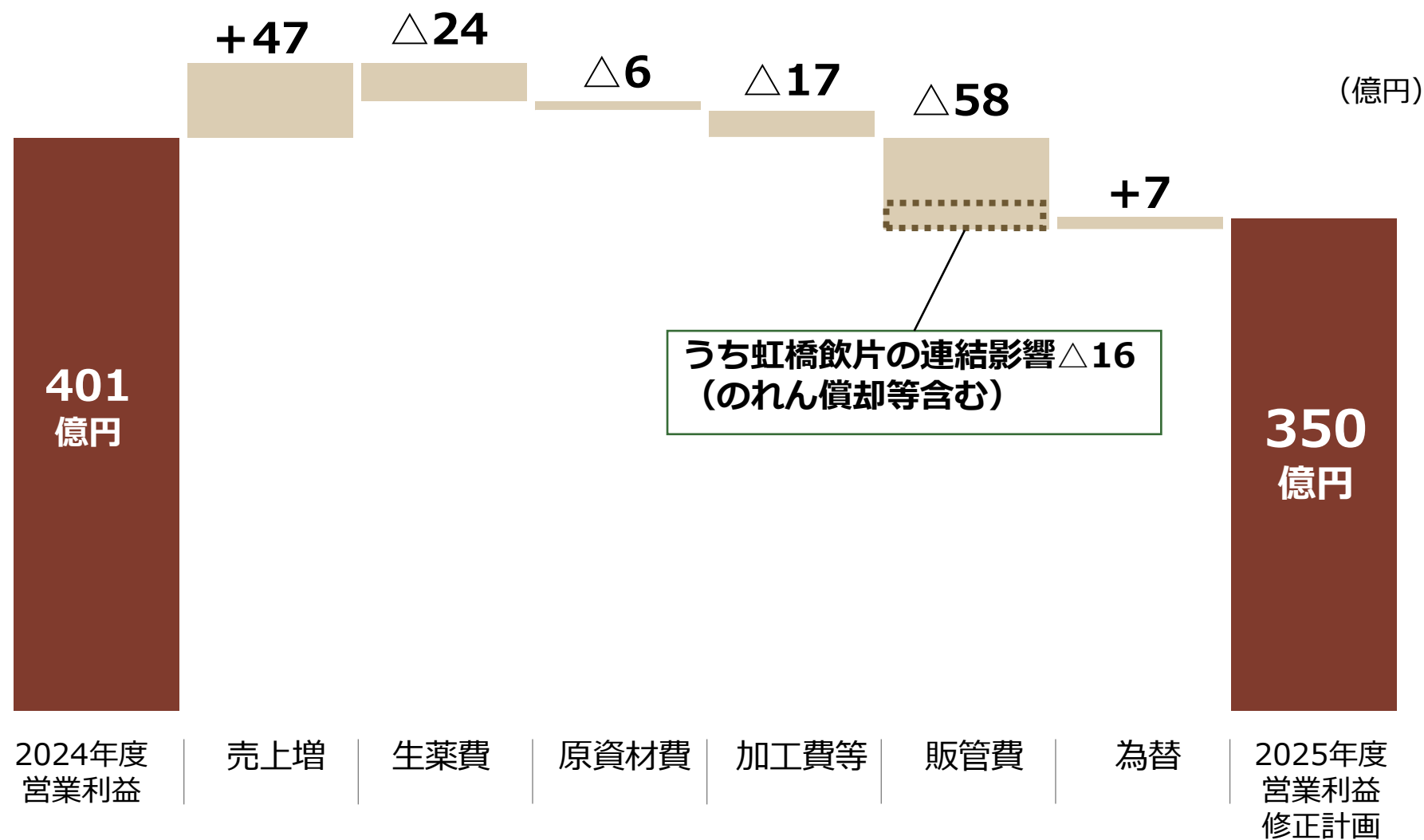
- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含んでおります。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により販売中止、または売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。
- 本資料には、医薬品（開発品目を含む）に関する情報が含まれておりますが、それらは宣伝広告、医学的なアドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料において提供される資料ならびに情報は、予告なしに、変更・追加・削除されることがあります。

Appendix

未実現利益の推移



営業利益予想の増減要因（前年比）

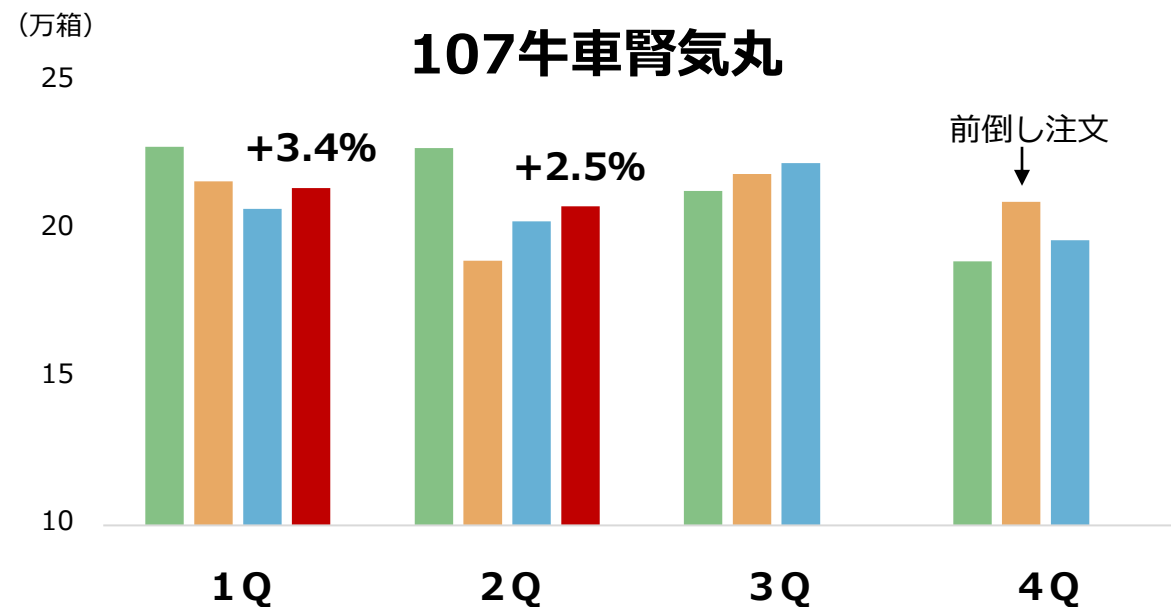
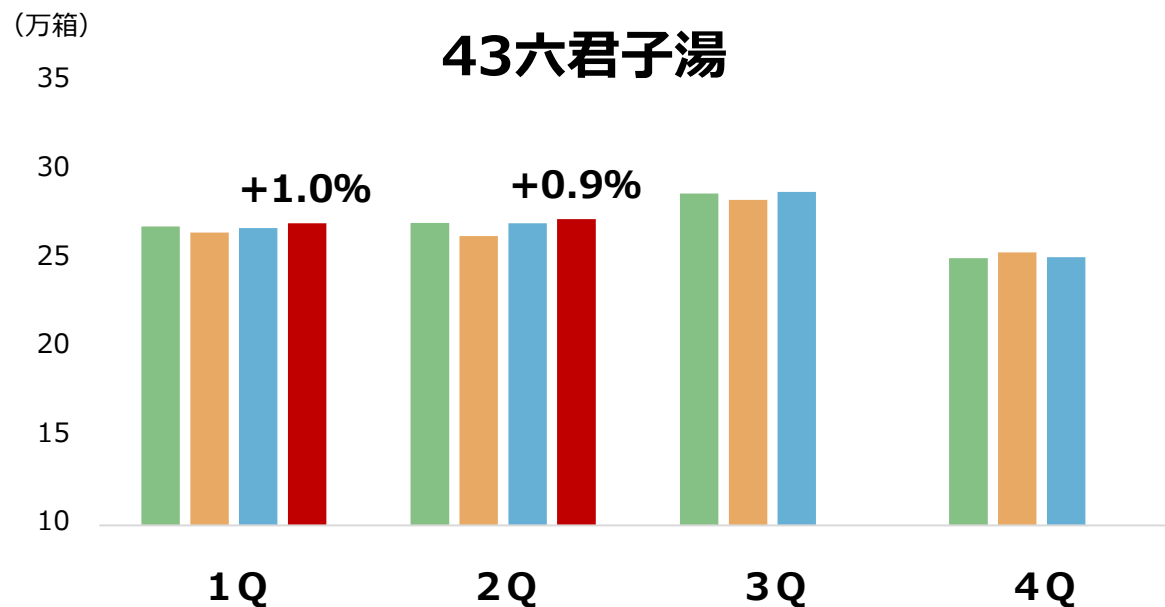


※分析の精緻化により生薬費と加工費の数値を一部変更しています

国内事業：実売数量推移（六君子湯・牛車腎気丸）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度



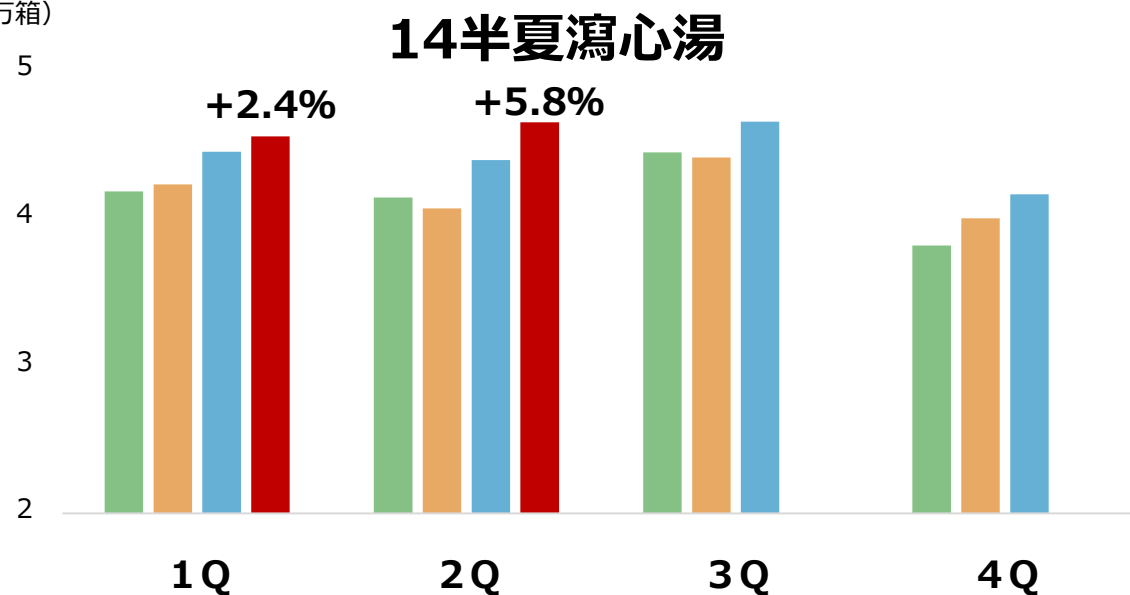
限定出荷期間：22年8月～23年4月

国内事業：実売数量推移（半夏瀉心湯・加味逍遙散）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度

(万箱)

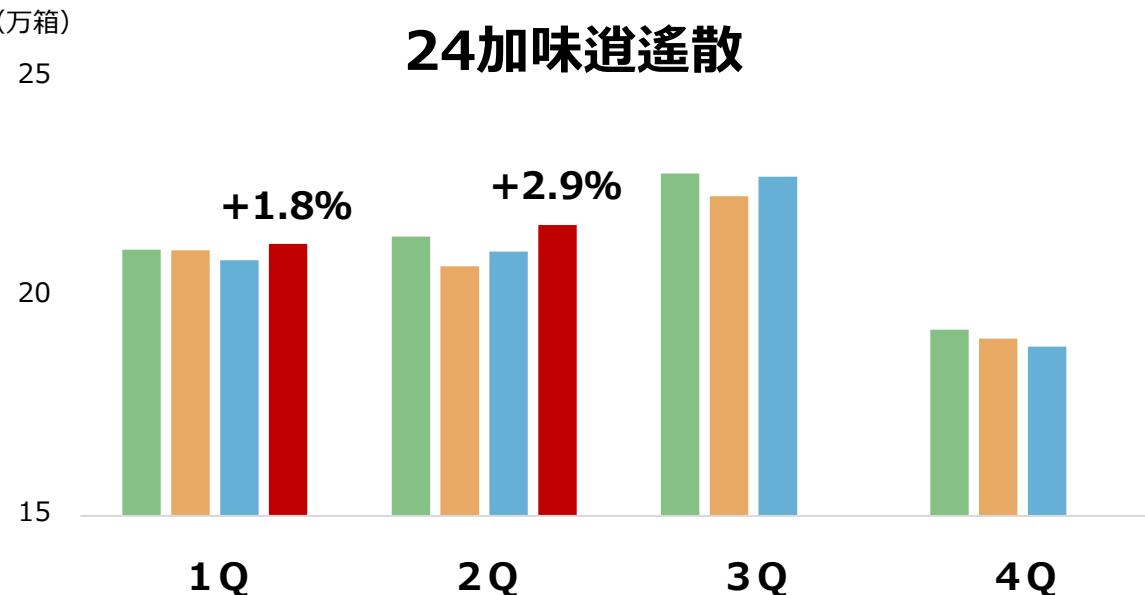


22～23年度:限定出荷期間中の情報提供の抑制もあり、横ばい状態。

24年度:消化器症状（逆流性食道炎による胸やけ、過敏性腸症候群による下痢、口内炎）等の施策により順調に伸長。

25年度:大学・臨研・がん拠点病院での活動を展開しさらなる伸長を目指す。

(万箱)



中国事業：生薬プラットフォーム 原料生薬の売上高の推移

(百万円)

6,000

5,000

4,000

3,000

2,000

1,000

0

1Q

2Q

3Q

4Q

■ 2023年度

■ 2024年度

■ 2025年度

原料生薬
売上高



中国事業：生薬プラットフォーム 飲片の売上高の推移

(百万円)

1,000

800

600

400

200

0

1Q

2Q

3Q

4Q

■ 2023年度

■ 2024年度

■ 2025年度

飲片
売上高

